

野田市消防団アンケート結果

令和6年11月

野田市消防本部

【アンケート結果及び分析】

1 消防操法大会及び出動報酬について

野田市が実施したアンケート結果は千葉県が令和5年度に県内全消防団員に対し実施したアンケート結果とほぼ同様の結果となっており、団員が最も不満（負担）に感じているのは、1位が「消防操法大会」で、どちらも7割以上の団員が不満（負担）と感じている結果であった。また、その他の項目に対する結果も同じような結果であり、2位が「報酬が少ない」、3位が「家族への負担」となっている。

1位の「消防操法大会」について、多くの団員は、「訓練の負担が大きい」、「大会には出場したくない」、「実践的でない」と回答しており、一方では「操法技術の習得は必要」と回答している。この結果は、訓練の負担が大きく、実際の火事場で行う動作とかけ離れた訓練を行うことについて、不満や負担を感じているが、共通意識として「操法技術の習得は必要」と感じている。

2位の「報酬が少ない」については、野田市の消防団員への年額報酬の額は、国が示している標準額や近隣市の報酬額と同額（36,500円／年）となっているが、警戒や訓練等の出動報酬については、野田市の単価（2,500円）は他市（2,500円～8,000円（4時間未満4,000円（国の調査の平均値））と比較して低い。このことが、「報酬が少ない」と不満に感じていると考えられる。

3位の「家族への負担」については、消防操法大会へ出動するための訓練等集まる日数や時間が多いことが原因の1つである。こちらは、今後の操法大会のあり方についての検討と併せて考えることとなる。

この結果から、消防団員の負担軽減を図るためには、「消防操法大会」のあり方について見直しが必要不可欠である。

なお、千葉県知事から令和6年4月19日付けで「消防団の活性化に向けた市町村等が重点的に取り組むべき事項として以下の取組事項が示されている。

- 市町村における消防操法大会の必要性について、廃止も含めて十分検討の上、開催の可否を判断すること。
- 消防操法大会を継続する場合は、「任意参加」を徹底した上で、消防団員の負担に配慮した開催頻度や内容とすること。また、選手のみならず支援団員の負担にも配慮し、過度な訓練は見直すこと。
- 全ての消防団員の技術向上につながる訓練を実施すること。

以上のことから、今後、以下の事項について検討を行う。

【検討事項】

- ・ 消防操法大会の廃止も含めたあり方について検討する。その中で消防操法大会を廃止した場合に、水出し訓練等、操法技術の習得をどのように行っていくか。
- ・ 出動報酬の額について再度検討を行う。（運営費補助については後記）

2 消防団の統廃合について

消防団員数が5人以下の分団（南方面隊、関宿方面隊）では消防団活動に支障があると回答した割合が7割以上となっており、11人以上の分団では支障がないと回答した割合が約8割となっている。

統廃合については、「統合した方がいい」が52.3%である一方、「統合しない（現状のまま）方がいい」も40.1%ある。

統合した方がいい理由としては、「人数が少ないと一人あたりの負担が大きい」といった意見や「少人数だと火災時に出動できない」といった意見がある。

統合しない方がいい理由としては、「OBや後援会との関係」や「統合により管轄する範囲が広くなり過ぎてかえって大変になる」といった意見がある。

また、令和4年度に4人以下となった2つの分団について、地元自治会と分団と統合について協議を行ったところ、統合は行わず団員確保に努めていくことになった経緯があるが、1つの分団は増員ができていない。

今回のアンケート結果及び過去の統廃合の経緯を踏まえて、以下の事項について検討を行っていく。

【検討事項】

- ・ 統合を希望する分団の意向及び地元自治会の意向調整を再度実施することとし、団活動に支障をきたさないよう、現状にあった体制について、どのようにするか検討する。
- ・ 過去に協議を行った分団については、再度状況を確認し協議を行う。

3 消防団員の確保について

消防団員が増えない要因として、消防団活動の負担、特に消防操法大会が負担であることから消防操法大会の廃止を求める意見が多数寄せられている。

また、「消防団に対するイメージも悪く、勧誘に行っても断られることも多い」との意見や「報酬が少ないため、団員の確保も難しい」といった意見がある。

国からは、「本来団員個人に支給すべき経費（年額報酬や出動報酬等）と、消防団や分団の運営に必要な経費（装備や被服に係る経費、維持管理費、入団促進や広報に係る経費等）は適切に区分し、それぞれを市町村において適切に予算措置すべきであること」と通知がなされている。

このことから、消防団員の確保に向け、以下の事項について検討を行っていく。

【検討事項】

- ・ 消防団を支援するため、運営費補助について、早急に案を示す。
- ・ 消防団員の確保に向けて、消防団のイメージアップをどのように行っていくか。

野田市消防団アンケート結果概要

【調査対象】

野田市消防団員 540 名

【回答集計期間】

令和6年2月27日（火）から令和6年3月27日（水）

【調査方法】

「ゲーグルフォーム」による無記名方式

【回答件数（回答率）】

304 件（304 件／540 件 回答率 56.3%）

（方面隊別内訳）

中央方面隊 78 件／151 件 51.7%

北方面隊 67 件／141 件 47.5%

南方面隊 64 件／100 件 64.0%

関宿方面隊 95 件／148 件 64.2%

合計 304 件／540 件 56.3%

（年齢別内訳）

20～29 歳 17 件／37 件 45.9%

30～39 歳 83 件／157 件 52.9%

40～49 歳 176 件／280 件 62.9%

50～59 歳 26 件／62 件 41.9%

60 歳～ 2 件／4 件 50.0%

合計 304 件／540 件 56.3%

（役職別内訳）

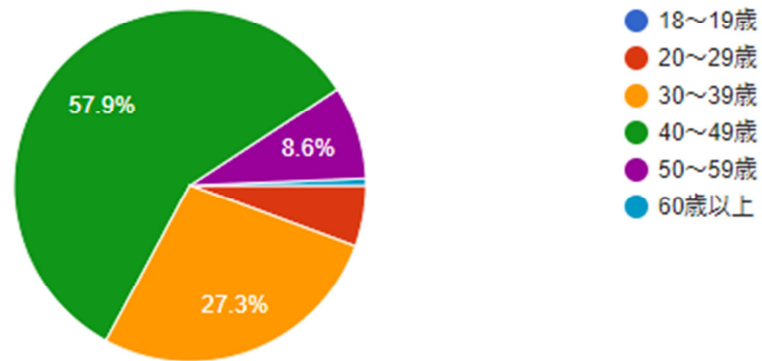
分団長以上 35 件／48 件 72.9%

副分団長・部長・班長 111 件／196 件 56.6%

団員 158 件／296 件 53.4%

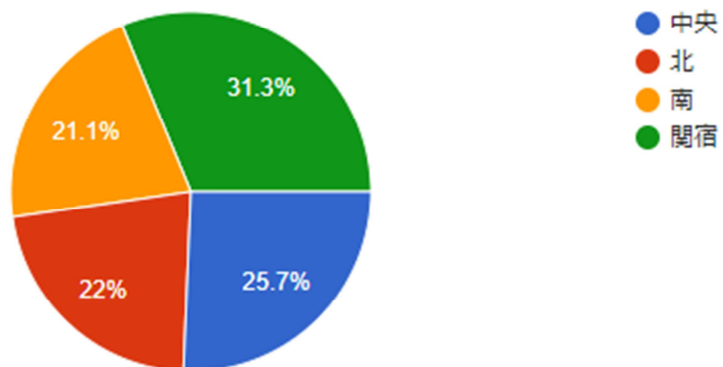
合計 304 件／540 件 56.3%

1. 年齢別の回答状況（304 件）



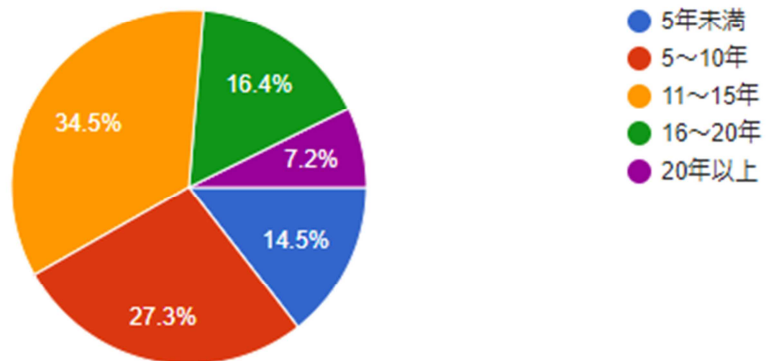
- ・ 40～49 歳の回答が 57.9%で最も多く、次いで 30～39 歳が 27.3%、50～59 歳が 8.6%となっている。

2. 所属方面隊別回答状況（304 件）



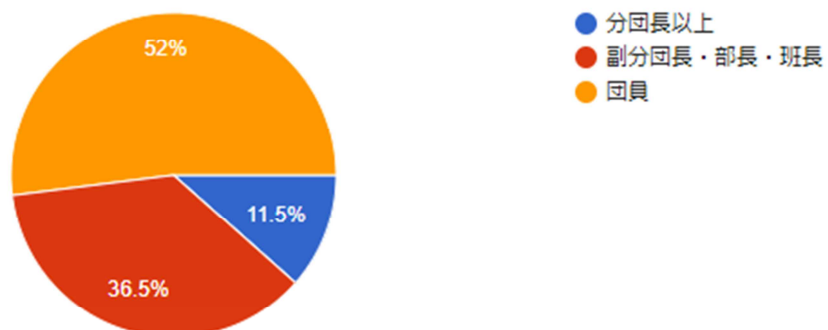
- ・ 関宿方面隊が 31.3%で最も多く、次いで中央方面隊が 25.7%、北方面隊が 22%、南方面隊が 21.1%であった。

3. 消防団加入期間別回答状況（304 件）



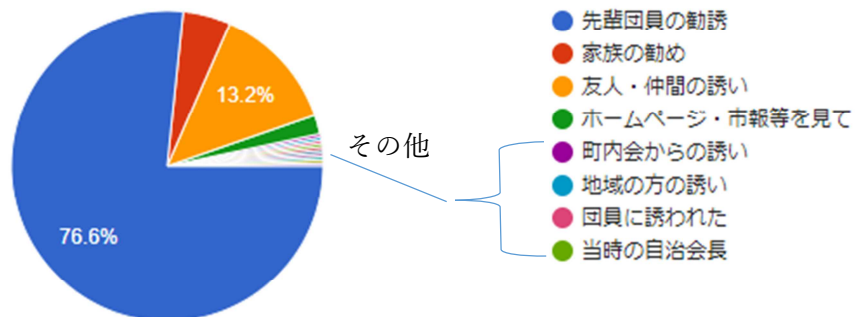
・11～15 年が最も多く 34.5%となっており、次いで 5～10 年が 27.3%、16～20 年が 16.4%、20 年以上が 7.2%となっている。

4. 階級別回答状況（304 件）



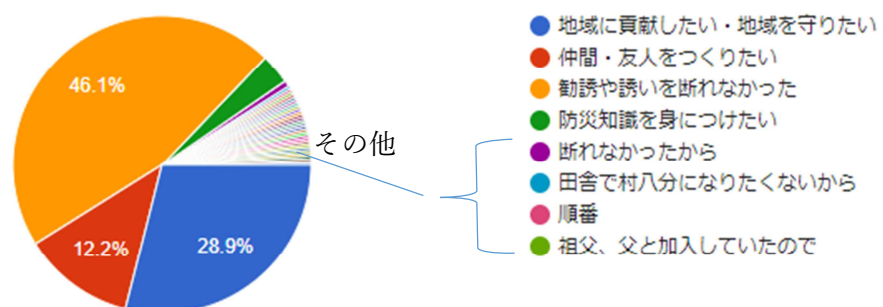
・団員が最も多く 52%となっており、次いで副分団長・部長・班長が 36.5%、分団長以上が 11.5%となっている。

5. 入団したきっかけは何ですか（304 件）



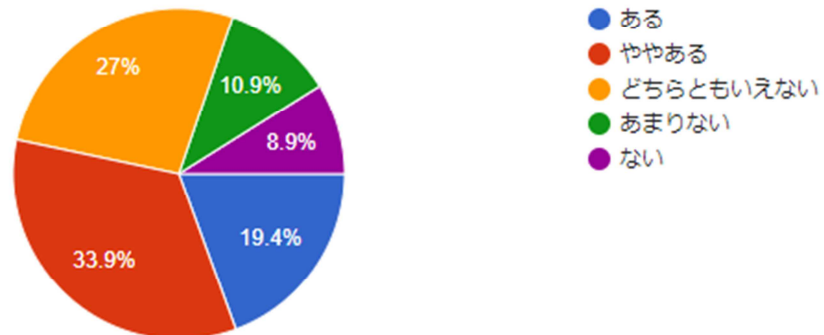
・「先輩団員の勧誘」が最も多く 76.5%となっており、次いで「友人・仲間からの誘い」が 13.2%となっている。約 9 割が直接的な勧誘により入団している状況である。

6. 入団した理由は何ですか（304 件）



・「勧誘や誘いを断れなかった」が 46.1%で最も多く、次いで「地域に貢献したいや地域を守りたい」が 28.9%、「仲間・友人をつくりたい」が 12.2%となっている。

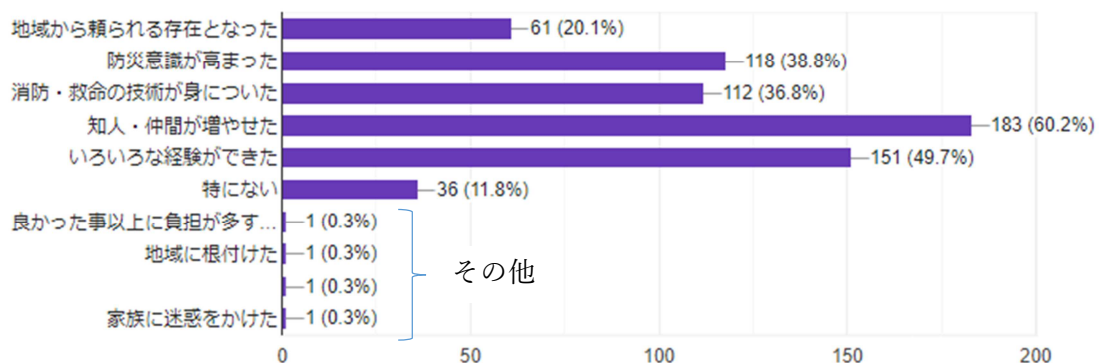
7. 消防団活動のやりがいはどうですか（304 件）



- ・やりがいが「ある」、「ややある」と合わせると 5 割以上となっており、やりがいが「ない」、「あまりない」と合わせた約 2 割と比較するとやりがいを感じている団員が多い。

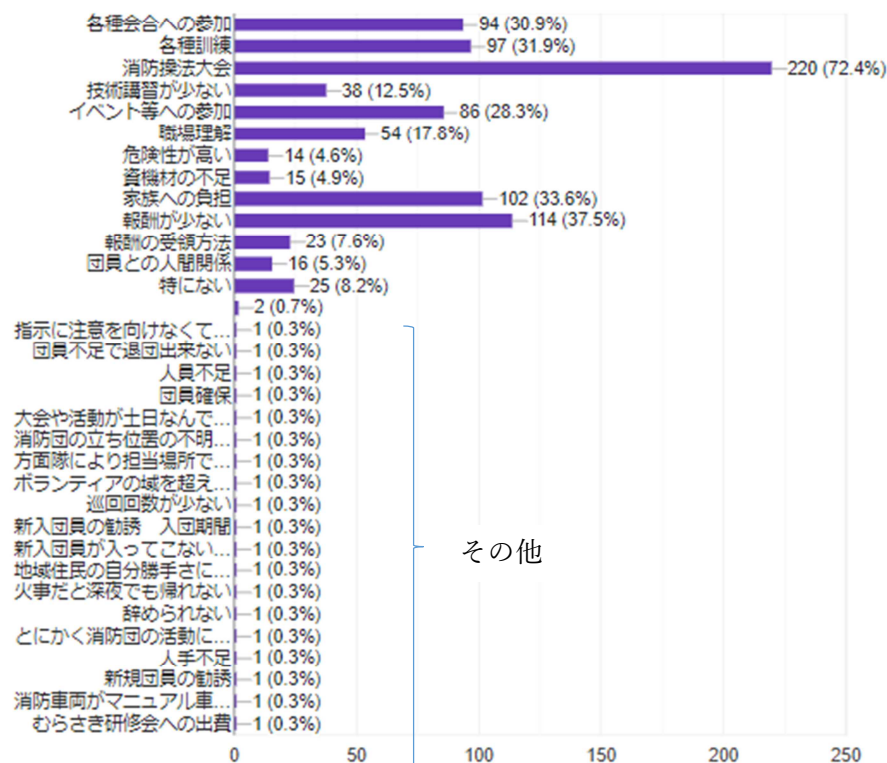
8. 消防団活動を通じて良かったと感じることは何ですか【複数回答可】

304 件の回答



- ・「知人・仲間が増やせた」が最も多く 60.2%となっており、次いで「いろいろな経験ができた」が 49.7%、「防災意識が高まった」が 38.8%、「消防・救命の技術が身についた」が 36.8%、「地域から頼られる存在となった」が 20.1%、「特にない」が 11.8%となっている。

9. 消防団で不満（負担）に感じることは何ですか【複数回答可】（304 件）



- ・ 7 割以上が最も負担（不満）に感じているのが「消防操法大会」との状況となっている。

10. 【不満（負担）に感じる理由（自由意見）150 件】

自由意見上位 3 位の主な意見

①操法大会が不満（負担）53 件（中央 12 件、北 16 件、南 10 件、関宿 15 件）

（操法大会は負担、意味がない、無駄）53 件

- ・ 仕事が終わってからの操法大会の練習は負担。
- ・ 操法大会の練習と仕事の両立は難しい。
- ・ 操法大会の練習に時間を取られ、仕事のにも家族にも負担。
- ・ 大会出動分団の大会までの練習拘束時間が多すぎる。
- ・ 操法大会の練習、全体訓練の参加などで休日が取れなくなる。
- ・ 操法大会の動作は実際の火事場での動きとかけ離れておりやる意義を感じない。
- ・ 操法大会は意味が無い、実践的でない。
- ・ 操法大会の内容が実際の火災の消火活動とかけ離れているため、操法大会の練習にも意味を見出すことが難しい。例えば、基本的な操作はできているか？シチュエーションに応じた的確な判断、行動はできているか？○番員など関係なく一連の操作技術は浸透しているか？など、より実践的な項目を評価する大会を望みます。

- ・操法自体は大切で実際火事場に出た際、経験の有無は必要と分かっていますが、それを大会にして競い合う必要は感じません。火事場で消す力。自身の安全を守る力を訓練の形で身につけられれば良い。
- ・操法大会が嫌で入団を拒否している人もいる。新しい団員を確保しようとしても、大会が意味がない、時間がもったいない、入ってメリットがないなどと言われる。

②消防団活動が負担 51 件（中央 10 件、北 18 件、南 9 件、関宿 14 件）

- ・家族サービスの時間、子どもと接する時間が減るため。
- ・休みが休みでなくなる。
- ・イベントなどで長時間の待機が負担。
- ・火災の出動は構わないが、全体訓練などの意味のない集まりはなくすべき。
- ・全体で集まる訓練や出初め等の行事が時間の無駄。

③報酬が不満 13 件（中央 5 件、北 1 件、南 5 件、関宿 2 件）

- ・報酬を増やさないで団員は減っていく一方だと思う。
- ・報酬がもう少し高くてもいい。
- ・出動時間と報酬の差。
- ・報酬が少ないのでやる気が出ない。
- ・手当が少ない。

操法大会が負担と回答した方面隊別及び年齢別の回答状況は以下のとおりとなっている。

（方面隊別回答状況）

中央方面隊	53 件／78 件	67.9%	北方面隊	47 件／67 件	70.1%
南方面隊	50 件／64 件	78.1%	関宿方面隊	70 件／95 件	73.7%
合計	220 件／304 件	72.4%			

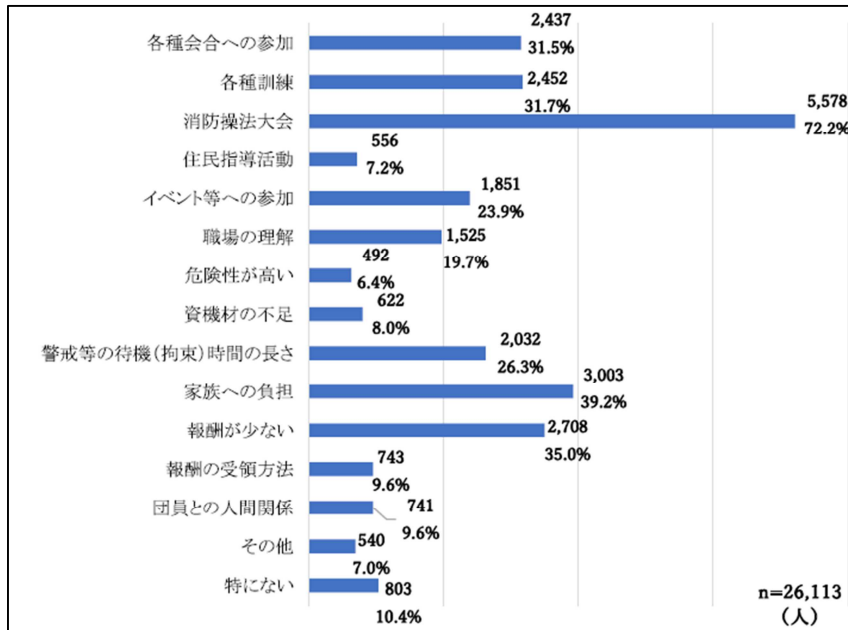
全体で 7 割以上が操法大会が負担であると回答している。

（年齢別回答状況）

20～29 歳	9 件／17 件	52.9%	30～39 歳	59 件／83 件	71.1%
40～49 歳	134 件／176 件	76.1%	50～59 歳	18 件／26 件	69.2%
60 歳～	0 件／2 件	0.0%	合計	220 件／304 件	72.4%

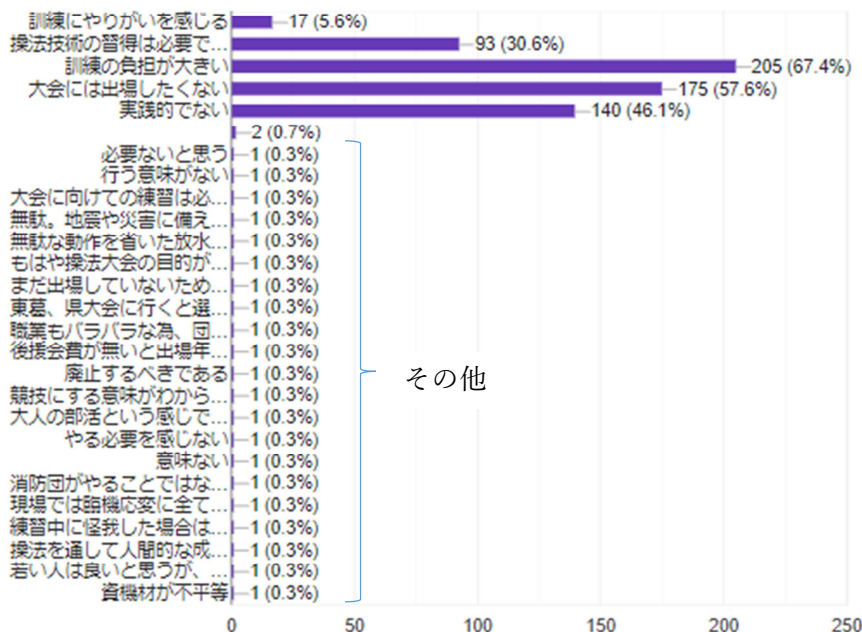
30 歳以上の年代では約 7 割が操法大会を負担に感じている。

【以下のグラフは千葉県が令和5年度に実施した消防団員へのアンケート結果】



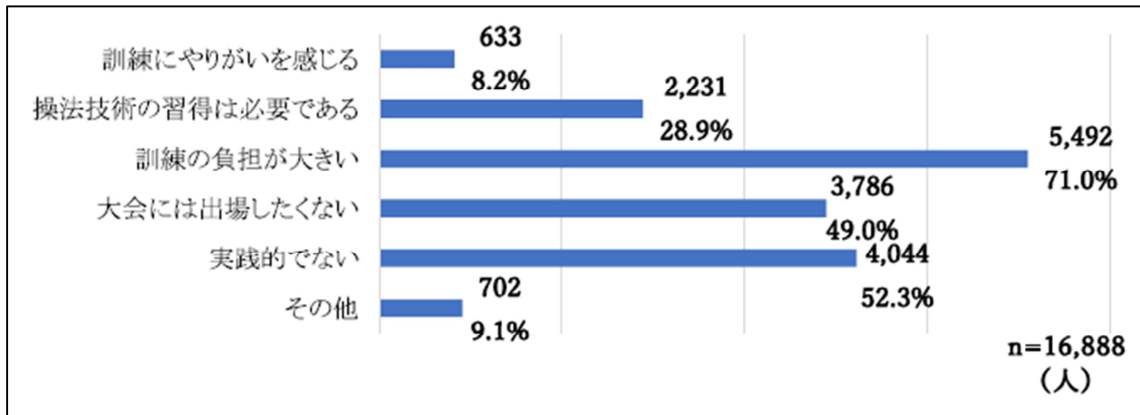
野田市が実施したアンケート結果も千葉県が実施したアンケート結果も同じような結果となっている。

11. 操法についてどう思いますか【複数回答可】(304 件)



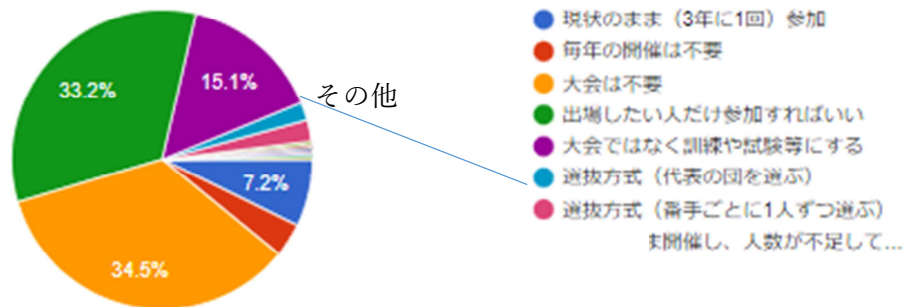
・「訓練の負担が大きい」が約7割近く一番多い状況となっている。

【以下のグラフは千葉県が令和5年度に実施した消防団員へのアンケート結果】



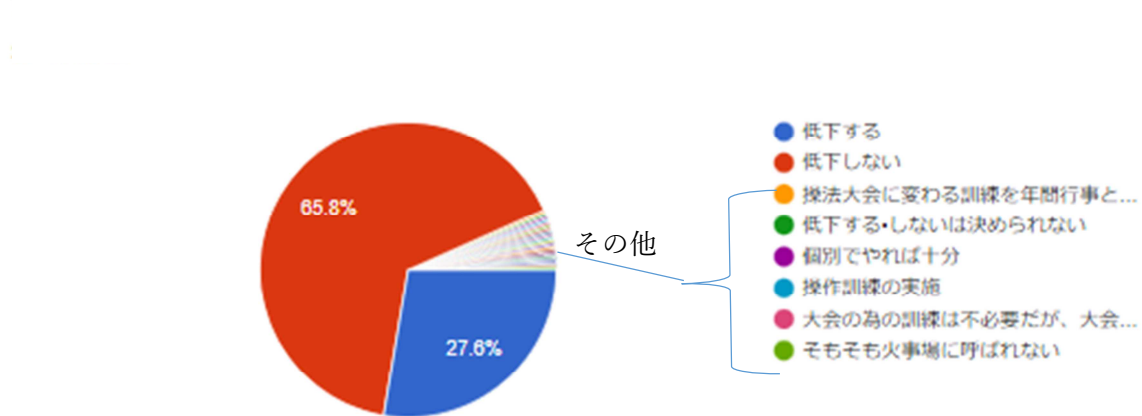
野田市のアンケート結果と千葉県のアンケート結果は同じような結果となっており、「訓練の負担が大きい」が最も多い状況となっている。また、「大会には出場したくない」、「実践的でない」、「操法技術の習得は必要である」と感じている人の割合も高い結果となっている。

12. 操法大会の開催についてどう思いますか（304 件）



・「大会は不要」が最も多く 34.5%となっており、次いで「出場したい人だけ参加すればいい」が 33.2%、「大会ではなく訓練や試験等にする」が 15.1%、「現状のまま（3年に1回）参加」が 7.2%となっている。

13. 操法大会をやめた場合消火技術が低下すると思いますか（304 件）



14. 低下する 低下しない理由 （自由意見 151 件）

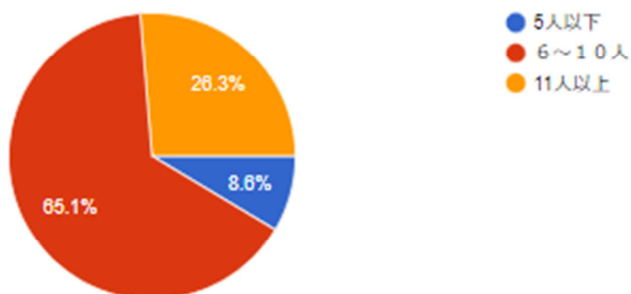
●低下する 27.6% 自由意見 48 件（中央 13 件、北 17 件、南 4 件、関宿 14 件）

- ・操法大会が必要か否かは別として、操法大会の練習を通じて器材、器具の取扱いを覚える人が多いと思うのでそれがなくなると技術は低下すると思う。
- ・練習しないわけだから、もちろん技術が身につかない。
- ・操法大会をやらなくなるのだから、操法自体、やらない所が出てくる。当然技術力は下がると思います。
- ・操法が基本の操作だから。
- ・大会の代わりに訓練などの回数を増やさないと火事場で動けない。

●低下しない 65.8% 自由意見 96 件（中央 21 件、北 22 件、南 25 件、関宿 28 件）

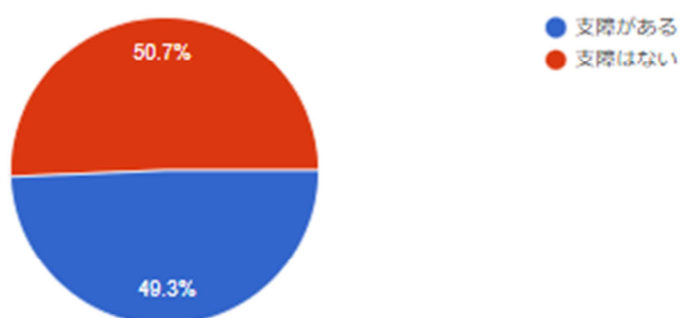
- ・職員指導による訓練を実施すればいいと思うし、実際の火災で必要になりそうな中継訓練とかをすべき。
- ・火事場で大会と同じ方法で操作する事はない。大会のための操法になってしまっている。
- ・水出し訓練をしっかりやれば技術は保てる。
- ・大会の訓練ではなく火事場で役に立つ訓練をした方がいい。
- ・現行の大会の為の練習は実践的でない部分がとても多いので、より実践的な訓練を行えば大会が無くても全く問題は無い。むしろ、○番員と決めて練習するより一連の消火活動を習得することで消火技術が向上する可能性もあると思われる。

15. あなたが所属する分団の団員数は何人ですか（304 件）



- ・「6～10 人」が最も多く 65.1%となっており、次いで「11 人以上」が 26.3%、「5 人以下」が 8.6%となっている。

16. 現在の消防団員数で消防団の活動に支障がありますか（304 件）



- ・「支障がある」と「支障はない」がほぼ同じ割合であった。各団員数ごとの内訳を見ると、5 人以下の分団では、支障があるが 73.1%となっており、11 人以上の分団では支障がないが 77.5%であった。

【5 人以下】

支障がある 19 件／26 件 73.1% 支障がない 7 件／26 件 26.9%

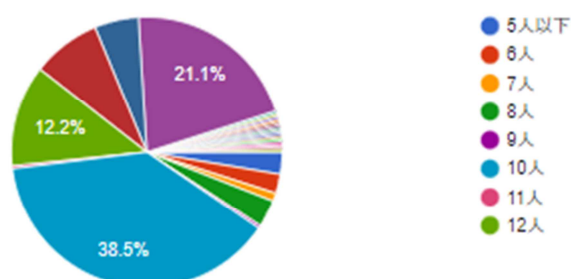
【6～10 人】

支障がある 113 件／198 件 57.1% 支障がない 85 件／198 件 42.9%

【11 人以上】

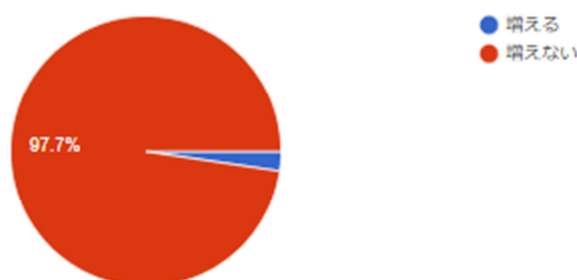
支障がある 18 件／80 件 22.5% 支障がない 62 件／80 件 77.5%

17. 消防団活動を行う上で適正な団員数は何人くらいが妥当だと思いますか
(304 件)



- ・適正な団員数は「10 人」が妥当とする割合が最も多く、2 番目の「9 人」と合わせて約 6 割となっている。

18. 消防団員は今後増えると思いますか (304 件)



- ・今後消防団員が「増える」と思っている団員はほとんどいない状況である。

19. 増える 増えないと思う理由 (自由意見 172 件)

●増える 1 件 (関宿 1 件)

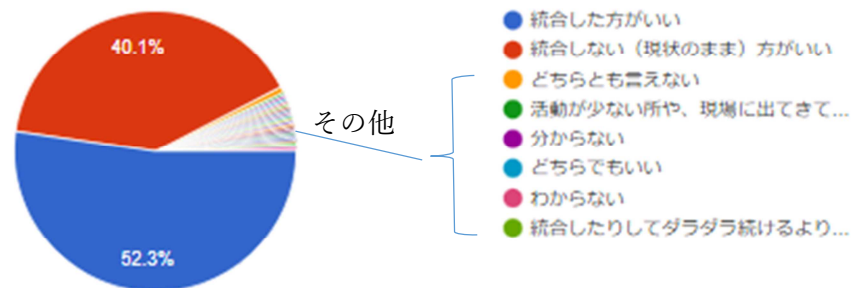
- ・やり方次第。コンパニオン遊びや、不必要な上下関係を無くして、一般常識をつければ、やりがいを感じたり、家族等の理解を得るなど、入りたいと思う人はいると思う。

●増えない 171 件 (中央 44 件、北 47 件、南 33 件、関宿 47 件)

- ・魅力がないから。デメリットが多い。所属している団の町内では、対象となるような人間の絶対数が少ないため。
- ・消防団に対するイメージが悪く思われている。ネットに悪く書かれていることが多い。ネット社会により若者がすぐにネットで情報を得て、勧誘してもすぐに断られる。地元で自営業がない。

- ・若手の消防団への理解、興味が薄い。勧誘に行くがほぼ全滅 若い子の消防団への印象が悪い。興味が無い。
- ・過疎化が進み若者が地域にいません。近所を歩けば老人に当たる状況です。このままの状態であると消滅してしまうかもしれない状況なので、分団の統合を希望します。
- ・操法大会がある手当の改悪は、ほぼほぼボランティア活動であり、自営業が減っているため、増える負担が大きい。また入ってもなかなか辞められないので、消防団へ入ろうと思えないため。

20. 消防団の統廃合についてどう思いますか（304 件）



「統合しない（現状のまま）方がいい」も 40.1%となっている。

21. 統合した方がいい、統合しない方がいいと思う理由（自由意見 139 件）

●統合した方がいい 52.3% 自由意見 76 件（中央 19 件、北 16 件、南 20 件、関宿 21 件）

- ・とにかく人手が足りない。今のままでは一人あたりの負担が大きすぎる。少人数だと火災時に出動出来ない。
- ・一つの団あたりの人数が少ないと、巡回等の比較的負担の少ない活動すら困難となるため。同分団の部の統合くらいであれば、影響は少ないのではないかな。
- ・人が増えないため、これ以上新人を探すのは辛い。
- ・近隣地域と統合しないと人が増えず、結果退団も出来なくなってくる。
- ・団員減少により活動に支障をきたしている分団もあるため。

「統合した方がいい」と回答した方面隊別の回答状況は以下のとおり。

中央方面隊	41 件／78 件	52.6%	北方面隊	32 件／67 件	47.8%
南方面隊	39 件／64 件	60.9%	関宿方面隊	47 件／95 件	49.5%
合計	159 件／304 件	52.3%			

南方面隊の割合が高く、北方面隊の割合が低い状況である。

●統合しない（現状のまま）方がいい 40.1% 54 件（中央 13 件、北 18 件、南 6 件
関宿 17 件）

- ・各それぞれのOB、後援会もあるだろうし難しいと思う。
- ・統合したら、管轄する範囲が広くなり過ぎて、かえって大変。
- ・自治会等の付き合いが複雑になる。
- ・統合するとそれを機会に一気に抜ける人が増えると思われる。
- ・統合しても出れる人にばかり負担になる。

「統合しない（現状のまま）方がいい」と回答した方面隊別の回答状況は以下のとおり。

中央方面隊	31 件／78 件	39.7%	北方面隊	31 件／67 件	46.3%
南方面隊	20 件／64 件	31.3%	関宿方面隊	40 件／95 件	42.1%
合計	122 件／304 件	40.1%			

北方面隊の割合が高く、南方面隊の割合が低い状況である。

22. 仮に近隣の分団と統合した場合に問題（支障）となることはありますか
（自由意見 132 件）

- ・消防活動をお互いに相手任せになると思う。単純にやりづらくなる。
- ・起点場所が、遠くなり参加するのが、面倒くさくなる。
- ・現在の団員の立ち位置。役が重複するので割振りをどうするのか。新入団員をどのように勧誘するのか、また各自治会からの定数。各自治会から奉仕依頼があった場合の対応。後援会がある場合は、後援会同士の関係。
- ・誰が残るか辞めるかもめると思う。辞める時期がさらにおそくなる。
- ・操法大会への熱意が違いすぎて不和を起こす。

23. 消防団員を確保するためのアイデアや有効な手段（自由意見 124 件）

- ・報酬を増やすこと。
- ・消防団に所属していることの協力なメリット（市民税減税、子育て支援受けられる等）が受けられるようにする。入団した家族にもメリットがあるようにする。
- ・操法大会の廃止。
- ・消防団のイメージアップを図る。
- ・市の職員が率先して入団すれば良いと思う。業務として入団させるのも良いのではないかな。

24. 消防団活動に関する御意見（自由意見 84 件）

【意見の多かった項目及び主な意見】

●操法大会の廃止 15 件

- ・地方公務員にはわからない、地元のしがらみがあります。それが面倒で、支障が多くて、不利益ばかりだからボランティア団員が増えません。そのしがらみの中心にあるのが操法大会です。全国的に操法大会の廃止が謳われている今、対応が遅れることは野田市へのマイナスイメージしか生まないと思います。良く考えてください。
 - ・かつて団員が豊富だった時代において操法大会は大変有意義だったと思います。緊張感の中での訓練で培った知識、技術は今でも忘れる事無く火災現場で役に立っています。ただ現在の団員減の中では、逆効果となっています。団員間での指導者不足、各練習における設営準備片付けの負担等操法大会に変わる、有事の際の訓練に重きを置くべきだと思います。
 - ・アンケートは定期的に行われますが、これらのアンケート結果を公表しないのでしょうか。または反映されてますか？操法大会の廃止を求める意見が多数なのに強行してる印象ですが、形だけでこのようなアンケートを強いられるのでしたら迷惑です。
 - ・操法大会に関しては不要だと思います。期間中、各々仕事がある中、週に2回も体に負担がかかる練習をし、実際の火災現場で役に立たない部分が採点対象になるなど、消防署職員さんの負担を考えても無駄だと思います。消防団員が増えない原因のひとつだとも考えます。それよりも定期的に消防署主体になって機械周りの操作訓練、他分団や指令本部との連携訓練、火災現場災害現場想定訓練などより実践的合理的な方法を考えるべきだと思います。
- ここ数年で入ってきた分団員は特に実践経験が乏しいので是非ご一考頂けたらと思います。
- ・操法大会は廃止して、他に消火技術の訓練などを行なってほしい。

●団員の確保 15 件

- ・団員の確保の問題を何とかしてほしい。早急に解決できないのであれば各種行事の不参加を認めてほしい。または分団の解散または休止を認めてほしい。
- ・自治会も廃止になる時代です。どれだけ必要性を感じて頂けるか。また、活動する事への社会からの理解等々、難しい問題だと思います。火事や災害がおこったら、消防がやってくれるんでしょ！自分には直接関係ないし…って言う感覚が普通になってます。言葉は悪いですが、大きな災害や大火事が起こり、痛い目に合わないとは分からないかもしれません。団も、活動や出動が減少する事はある意味有難い事ですが、現場での経験が少なくなると言うことは、言わずもなかですね。仕事でもそうじゃないですか。資格ばかり持ってても、経験してなければ話になりません！野田市も痛い目に合わない目が覚めないのですかね。初めの方にも書きましたが、震災で辛い思いをしたので、繰り返しは

したくないと個人的には思ってます。

- ・人ばっかり減るので、残っている団員に負担が大きい。新人団員を誘うのが厳しい。
- ・若い人材が入って来ないのでなかなか辞められません。地域差を埋めるためにも統合を検討して欲しいです。後援会があるから統合出来ない等はやめてほしいと考えます。
- ・消防団の存在意義はあると思っております。入団してみて、実際の火災現場では消防署だけでは対応できない部分がある事も分かりましたし、同時に複数箇所で発生したり、自然災害時の活動など非常時の備えにも重要な存在です。また、入団した事で地域の近い世代の人達と知り合えたことも大きな出来事でした。おそらく、入団していなければ顔は見たことはあるけど、話をする事は無かったであろう人達と仲間になれたことは、消火活動とは関係無い面ですが、良かったと感じております。もっと地域にポジティブな面を認知され、団員が循環していける消防団が多くなったら良いなと感じております。よろしくお願いいたします。

●制度・運用の見直し 8件

- ・活動人員、活動回数をもう少し自由にして欲しい。
- ・現在は、同じ方面隊内での火災でも行けない場所もあり、ジレンマがある。自宅の目の前が違う町内のため、火災が起きても出動できない状況。方面隊内での火災は全て出動できるようにしてほしい。ポンプ所持分団に関しては、方面隊関係なく出動するようにするのもいいと思う。
- ・負担を減らす為に月の巡回を減らすようになっているが自分の分団は月2回は巡回をやっている。負担とは思っていないし防犯も兼ねているのでいいと思う。報酬がでないからといって決まった回数しか廻らない所もあるのはわかるのだが、そういうのが衰退に繋がっていくのだと思う。

●退団できない 7件

- ・10年以上経験している方の退団、退団しても出動に協力してもらえるシステム。
- ・ある程度の年数で必ず辞められるようにして欲しい。
- ・入団したら長すぎる、45才退団制度にしてください。

●消防団のイメージ 6件

- ・地域住民から理解支持を受けられるよう訓練の様子等を市報等でアナウンスしてほしい。
- ・消防団は必要である。ただ世間のイメージが悪く勧誘に行っても嫌な顔や遠慮されることも多い。(一度入るとやめられない等)自分が退団するための勧誘も入った新団員、残った旧団員両者に対し、わだかまりが残ってしまう場合もある。せつかく10年以上共に頑張った仲間と嫌な別れ方はしたくない。勧誘は消防団がすべきではないと思う。また、自治会、後援会等協力してくれるも、そのルートからの入団はほとんどないと感じる。
- ・実際にやってみるとやりがいのある仕事ではあるが、やっていない人たちとのイメージの格差を強く感じる。

●負担軽減 6件

- ・家族の理解を得るのも段々困難になってきていると思います。
- ・紙ベースでの連絡をメール等にしてほしい、災害メールの確実性を上げてほしい（誤報が多い、鎮火の連絡が来たり来なかったり）
- ・必要性は理解しているものの、団員への負担軽減策が講じられていないことから、特定の者に負担が集中する構造となっている。このため、誰もやりたがらない状態となっており、改善が必要。